

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

三月十三日 第三回 支部代表者会議 開催

3月 ジェット 決戦 スト貫徹 勝ちとった意義を確認

弾圧処分を許さず、組織的戦闘性を向上させる

三月十三日、三月ジェット決戦ストライキ貫徹の余じんさめやらぬなか、動力車会館において、全支部委員長の出席をえて第八回支部代表者会議が開催された。二月十九日助役機関士線見阻止闘争を皮切りとした連続闘争の決起と、首都圏はもとより全日本を震撼させた五日間ストライキを文字通りその先頭に起って闘い抜いた、各支部委員長の顔は明るく眼は輝き自信に溢れた活発な討論が行われた。会議は、三月ジェット決戦ストライキの勝利的中間総括を確認し、当面する反彈圧、反処分、組織強化の取組みを決定し成功裡に終了した。

三月ジェット決戦ストライキ貫徹の成果

支部代表で提起された三月ジェット闘争の中間総括視点は次の通りである。

第一に、三月ジェット闘争は、動労千葉の三里塚・反合を基軸にした路線の優位性・正義性を守り切り、「二〇二億円スト損賠問題」「三五万人体制攻撃」下で苦闘する国鉄労働者に「やればできる」という確信と闘魂を呼びさまし、揺さぶる歴史的闘いとして貫徹されたことである。

さらにこの闘いは、
○動労千葉組合員が「動労千葉とはこういう労働組合なのだ」と胸をはって誇りうる財産を作った闘いであり、
○三里塚闘争勝利の突破口を大きく切り拓く闘いであり、
○国鉄労働運動の戦闘的再生―日本労働運動の階級的・戦闘的潮流の胎動と高揚を作りだした闘いであり、
○権力・当局と動労「本部」スト破り集団一体となった動労千葉破壊攻撃―秋山差別労政を粉碎した闘いであった。

第二に、動労千葉千三百名組合員が、一旦腹をきめ腰をすえて決起するならば首都圏国電を震撼させうる底力を示しきったことである。
そのことよって

○秋山差別労政をよりよしがし、今後の当局との労働関係における優位性を確立し、

○「本部」スト破り集団の腐りきった正体を満天下にさらけだし、佐倉土屋一派の下部からの動揺を作り出したことである。附言するならば、二月二十二日以来現時点においても土屋幹をはじめとするデッチ上げ「支部三役」は職場に顔すら出せないという低た落ぶりであり、極少「本部」派組合員はこれに対し公然と不満をいいたす状況である。

○なによりも三月闘争過程で、動労〇〇地本の組

合員が直接支援にかけつけ、全国から多くの機電、が集中したことに示されたように動労大改革の大きな前進をかちとってきたのである。

第三に、ストライキ貫徹によって、反動秋山局長の非人間的、強権的、差別労政の破産を満天下に明らかにさせたことである。

それは、闘争終了後動労千葉の底力に完全にダメージをうけ塩川運輸相に叱責され錯乱状態に陥ったとしかいいようのない状況で、「組合幹部と口をきくな」等といいたすしつである。その本人は口先と裏腹に、動労「本部」を訪ねる等というまさに「本部」反動分子とのユ着を実行するといふ許しがたい反動的行為を働いているとききおよぶ。

総じて、反動秋山差別労政の非道さに立ち向う動労千葉の正義性が職場・生産点の国労組合員を突き動かし、国労・動労中央の裏切りの妥結による動労千葉孤立化策動は完全に粉碎し、三里塚勝利と国鉄労働運動―日本労働運動の戦闘的転換をかちとる突破口をきぎいたのである。(次号で当面する取り組みを報じます)

交渉速報■新賃金で申し入れ

動労千葉は、去る三月十日、「動労千葉第三号」をもって「一九八一年四月一日以降の新賃金についての申し入れ」を行った。申入れ内容は次の通り。

1. 次の通り年令別基準を設定し、賃金引上げを行う事。
 - (1) 二五才 一六、二〇〇円 (4) 四〇才 二九、一〇〇円
 - (2) 三〇才 二二、五〇〇円 (5) 四五才 三三、八〇〇円
 - (3) 三五才 二五、九〇〇円
2. 一八才採用給については一〇、三、一〇〇円とする事。
3. 扶養手当については、配偶者・子一〇、〇〇〇円、親五、〇〇〇円にそれぞれ引上げる事。
4. 都市手当は賃金引上率の増額を基本とし、千葉管内の特殊事情にもとづく人口密度の異常増加などを考慮し、それぞれ新設または級地の引上げを行うこと。
5. 臨時雇用員の最低賃金を日額四、五〇〇円、月額一〇、〇〇〇円とすること。なお、一ヶ月をこえて継続勤務する者については、「月額制」とすること。
6. 運転職場の特殊性および従来の懸案事項である職群引き上げ、是正などを行うこと。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!